

8. がん対策に関する意識

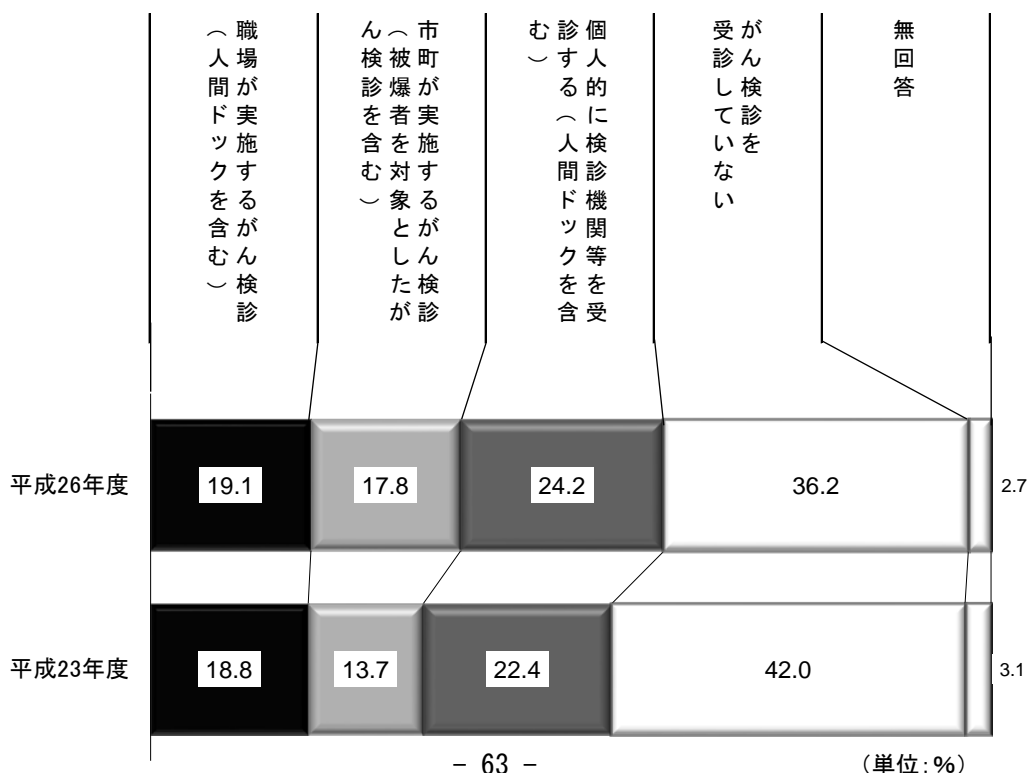
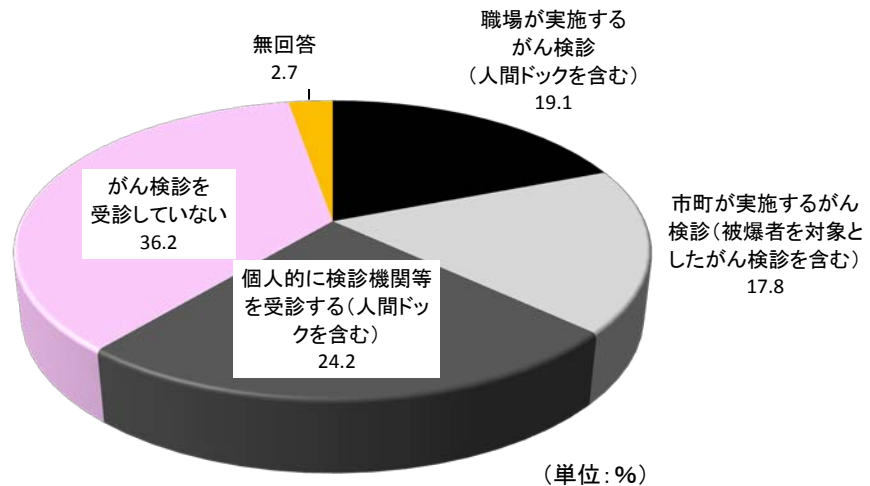
(1) がん検診の受診状況

問 24 あなたは、過去1年間にどのような方法でがん検診を受けていますか。次の中から最もよく利用する方法を1つだけ選んでください。

がん検診を受診した人は、約6割。前回よりも6.2ポイント上昇

「職場が実施するがん検診」(19.1%)、「市町が実施するがん検診」(17.8%)、「個人的に検診機関等を受診する」(24.2%)を併せた過去1年間に何かしらの形でがん検診を受けたと回答した割合は61.1%となっている。「受診していない」と回答した割合は36.2%となっている。

前回調査と比較すると、がん検診を受けた人は6.2ポイント増加している。



＜属性による比較＞

【生活圏別】

過去1年間に何かしらの形でがん検診を受診した人は、広島生活圏が 64.3%、備後生活圏が 52.6%、備北生活圏が 66.4%であり、備後生活圏が他の2生活圏と比べて低い。

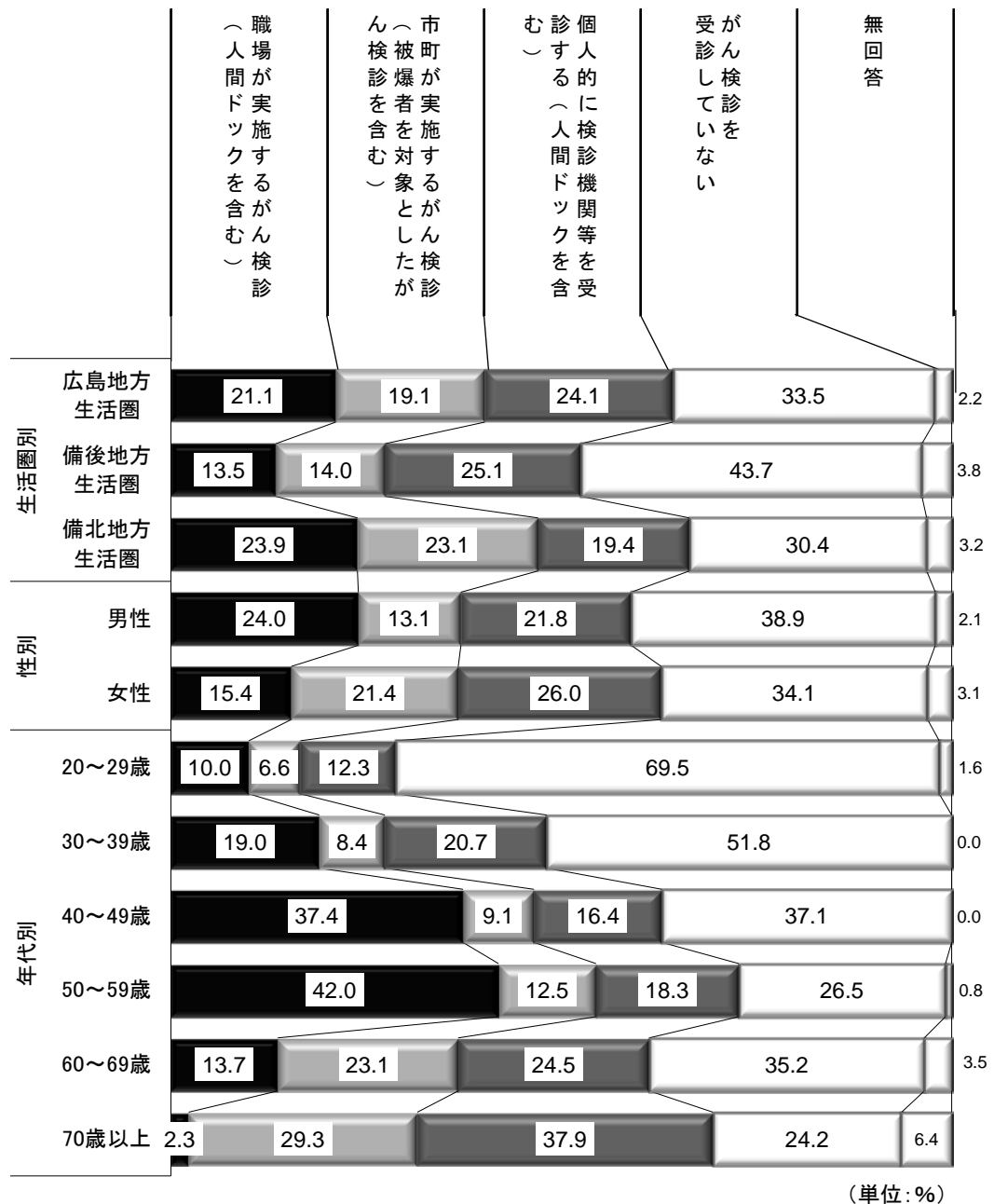
【性別】

男性は「職場検診」と回答する人が 24.0%で、女性よりも 8.6 ポイント高い。女性は「市町検診」と回答する人が 21.4%で、男性よりも 8.3 ポイント高い。全体では女性(62.8%)が男性(58.9%)を 3.9 ポイント上回っている。

【年代別】

40 歳代以上で何かしらの形でがん検診を受診した人は6割を超えている。50 歳代は「職場健診」の割合が高く、70 歳代以上は「個人的に受診」の割合が高い。

がん検診の受診状況(生活圏, 性, 年代別)



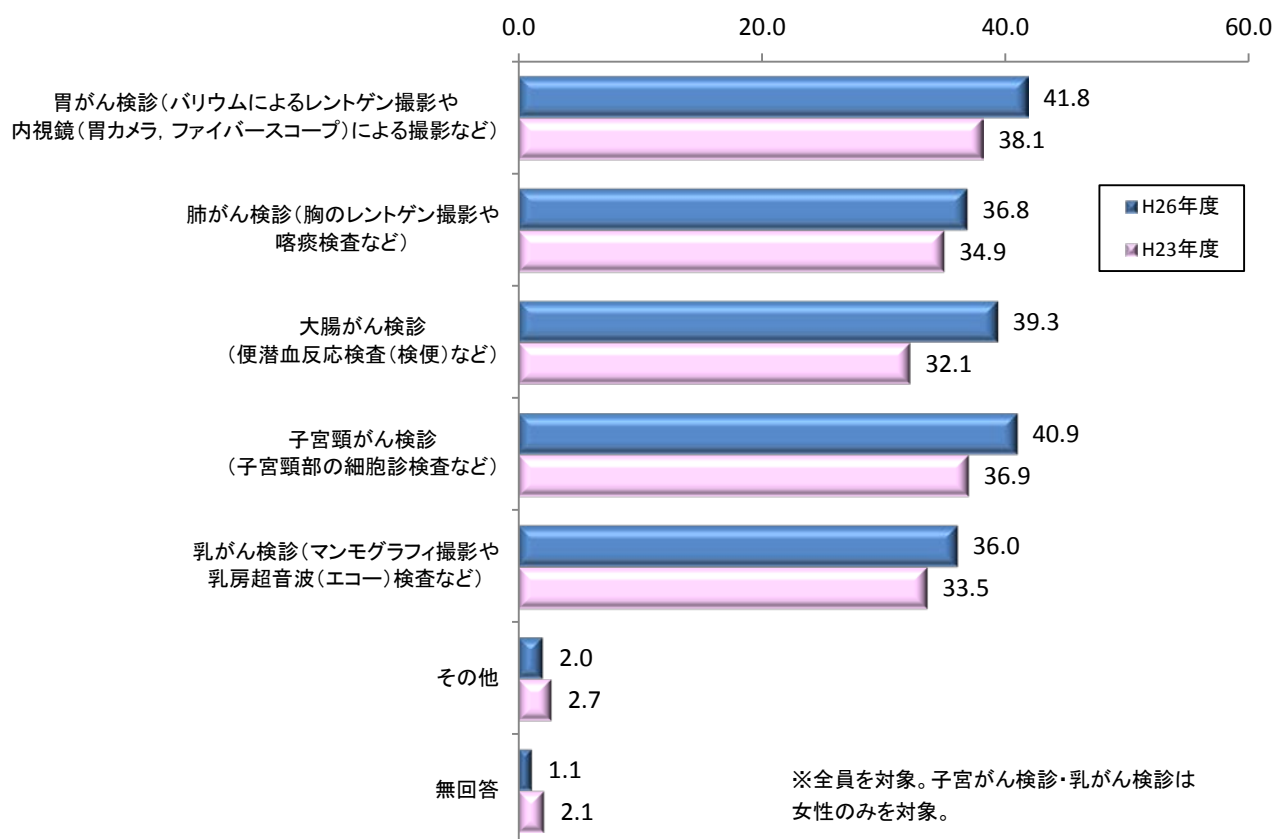
(2) 受診したがん検診

問 25 (過去1年間にがん検診を受けた方にお伺いします。)あなたは、次のうちどのがん検診を受けましたか。あてはまるものをすべて選んでください。(M. A.)

すべての検診で受診率が増加

「胃がん検診」と回答した割合が 41.8%と最も高く、次いで「子宮頸がん検診」が 40.9%、「大腸がん検診」が 39.3%となっている。

前回調査と比較すると、「大腸がん検診」が7.2ポイント増加したのをはじめ、全ての検診で受診率が増加している。



(単位: %)

<属性による比較>

【生活圏別】

いずれのがん検診についても、備北生活圏の受診率は他の生活圏と比べて高い。

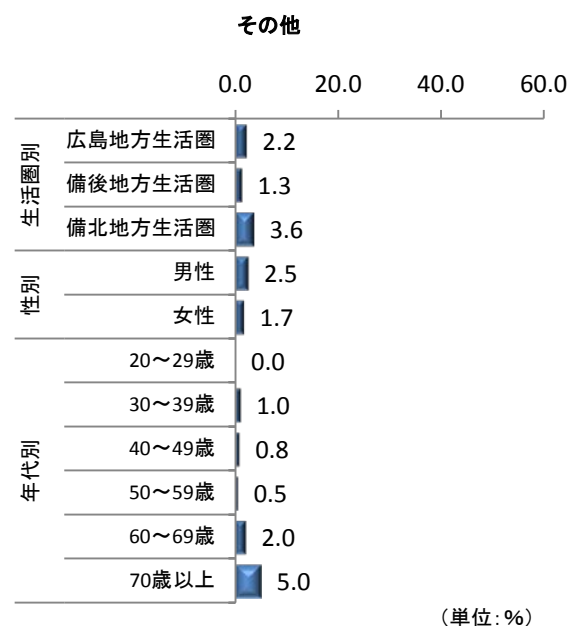
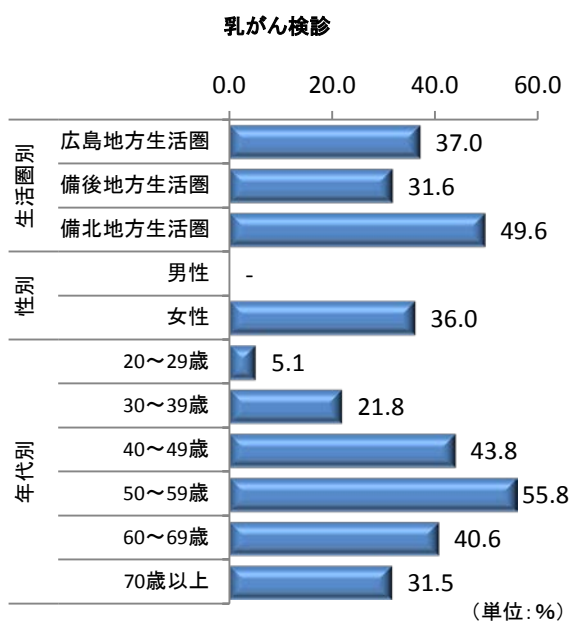
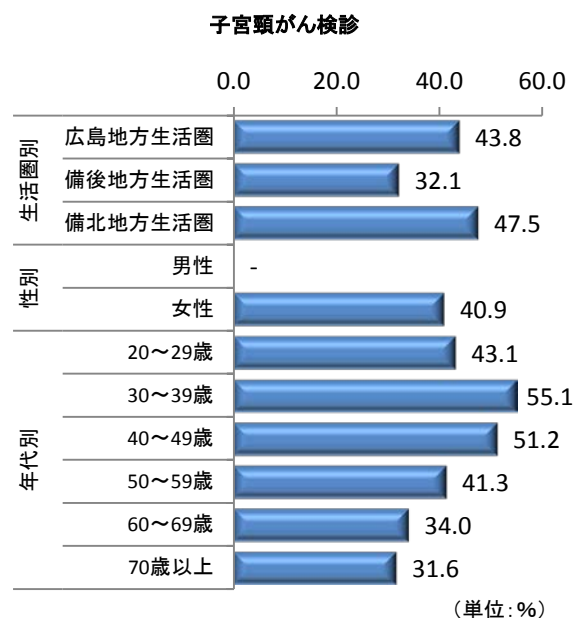
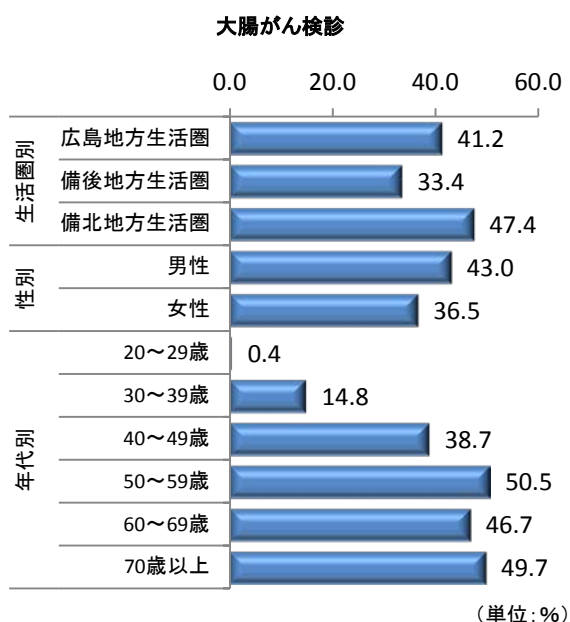
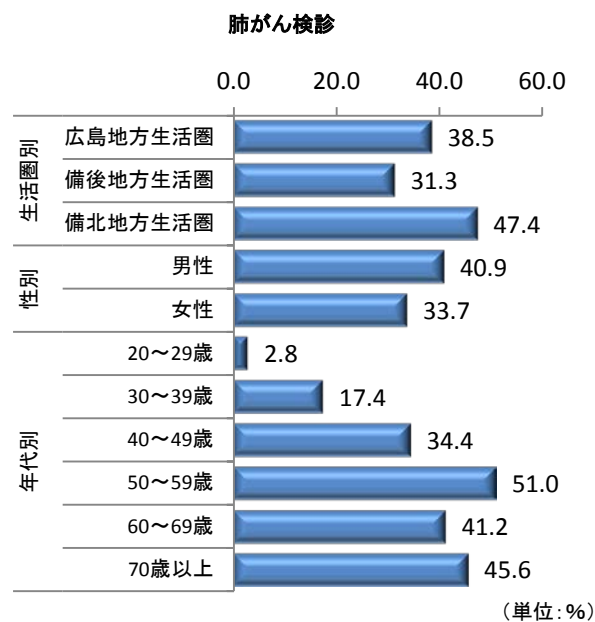
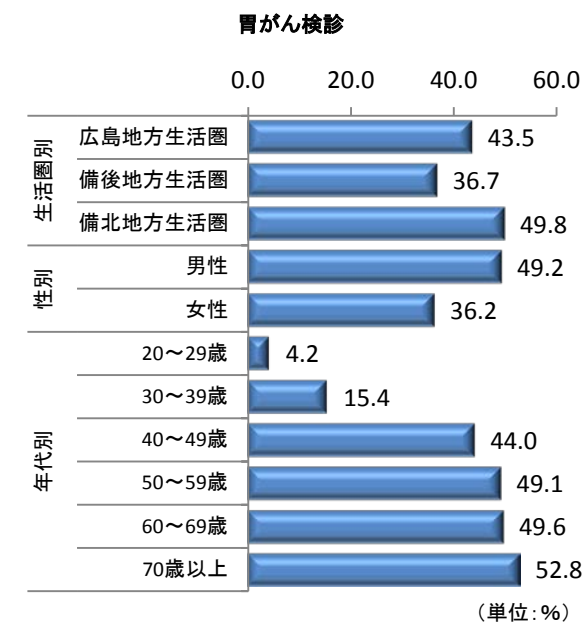
【性別】

男性の「胃がん」「肺がん」「大腸がん」の受診率は、女性と比べて5ポイント以上高い。

【年代別】

「肺がん」「大腸がん」「乳がん」では50歳代、「胃がん」では70歳以上、「子宮頸がん」では30歳代の受診率が他の年代と比べて高い。

受診したがん検診(生活圏, 性, 年代別)



(3) がん検診を受診していない理由

問 26 (過去1年間にごがん検診を受診していない方にお伺いします。)

各がん検診を受診しない理由は何ですか。①～⑤のそれぞれの項目について、次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(M. A.)

「心配な時は、いつでも医療機関を受診できるから」が上位にあがる

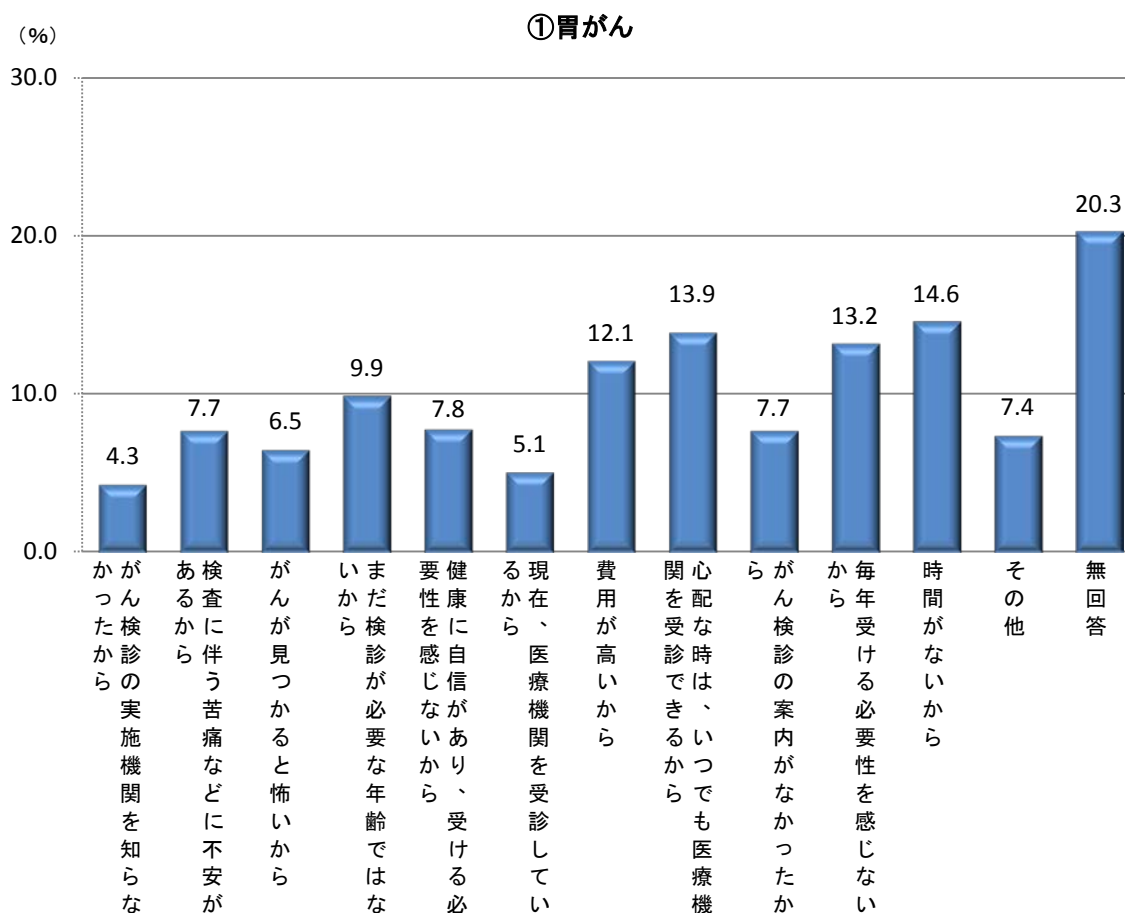
受診していない理由について、「胃がん」は「時間がない」が 14.6%と最も高く、次いで「心配な時は、いつでも医療機関を受診できる」(13.9%)、「毎年受ける必要性を感じない」(13.2%)となっている。

「肺がん」は「心配な時は、いつでも医療機関を受診できる」が 13.8%と最も高く、次いで「時間がない」(12.5%)、「費用が高い」(11.6%)となっている。

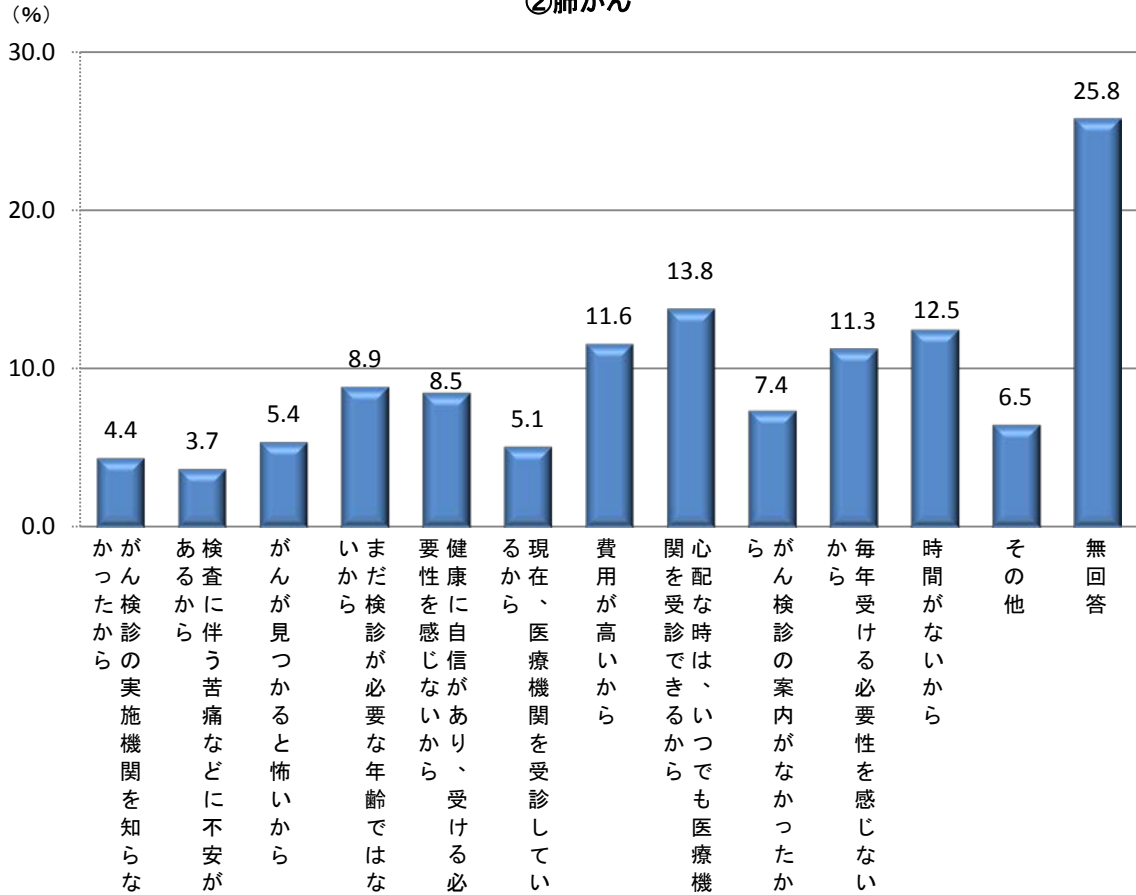
「大腸がん」は「時間がない」が 13.9%と最も高く、次いで「心配な時は、いつでも医療機関を受診できる」(12.5%)、「費用が高い」(12.0%)となっている。

「子宮頸がん」は「心配な時は、いつでも医療機関を受診できる」が 17.8%と最も高く、次いで「時間がない」(13.4%)、「毎年受ける必要性を感じない」(12.1%)となっている。

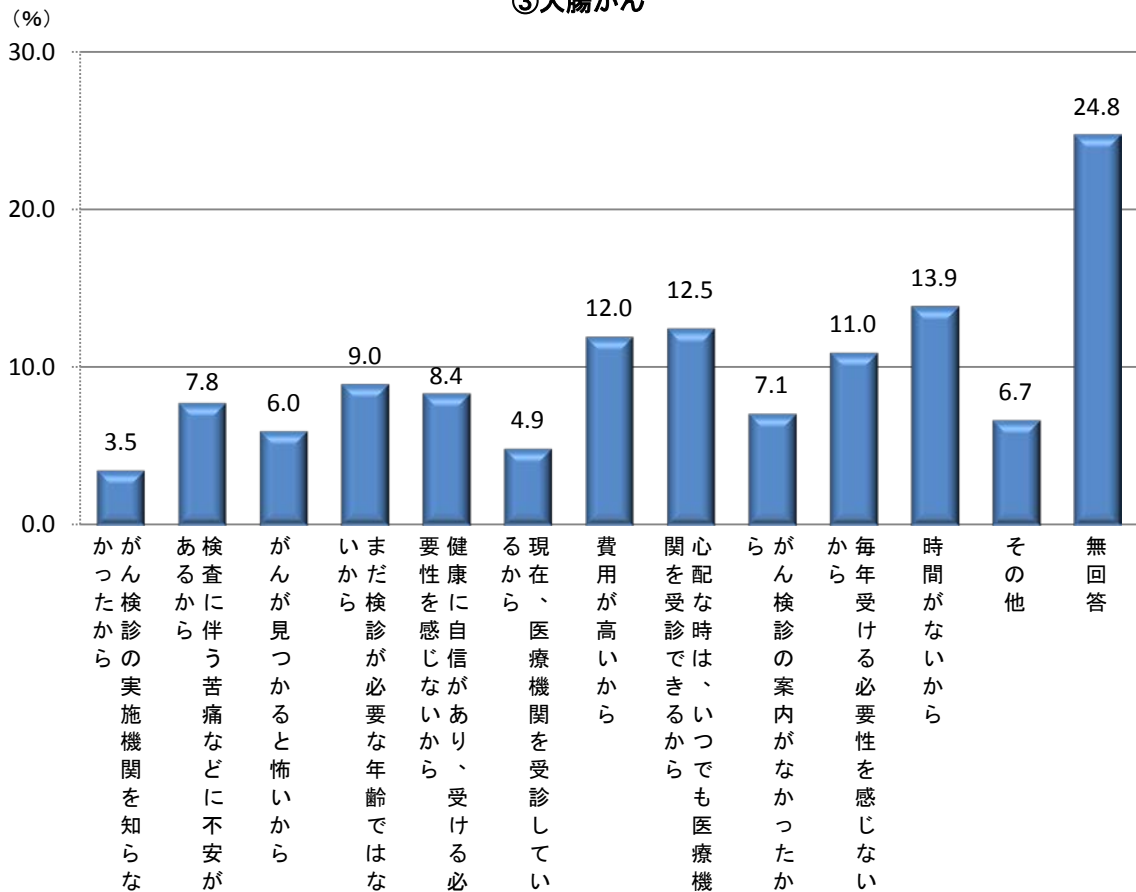
「乳がん」は「心配な時は、いつでも医療機関を受診できる」が 17.0%と最も高く、次いで「費用が高い」(11.8%)、「時間がない」(11.4%)となっている。



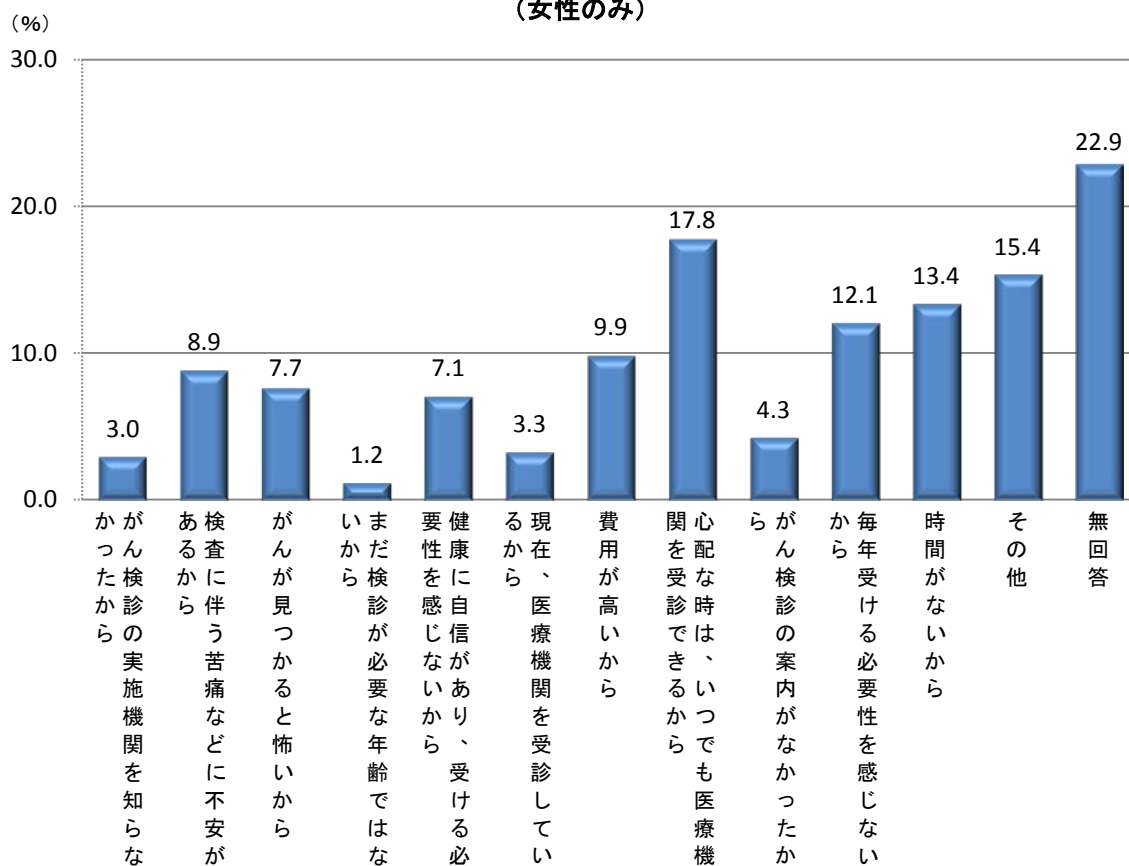
②肺がん



③大腸がん



④子宮頸がん
(女性のみ)



⑤乳がん
(女性のみ)

